

表記・書式細目

1. 表記の原則

(1) 日本語表記

日本語の表記は常用漢字、現代かなづかいを用いる。年号や月日、その他の数字はアラビア数字を用いる。ただし、慣用されている熟語や序数については著者の判断に委ねる。年号は西暦を用いる。外来語は慣用に従う。人名、地名は現地の発音に近いカタカナ表記を採用する。必要に応じて現地語を丸括弧内に附記する。ただし、すでに定着している人名・地名は慣用に従う。

カタカナで表記した現地語単語は、文中で用いることができる。その場合、初出の個所に丸括弧で括って、現地語を附記する。

(2) 漢字表記

現地の言語が漢字表記の場合、現地語単語を日本字で表記する。固有名詞以外はカギ括弧で括る。現地の漢字表記がそれに対応する日本字と異なる場合(中国語の簡体字等)、初出の個所に丸括弧で括って、現地表記を附記する。

(3) 人名表記

アルファベットによる人名表記は、後述する引用文献リストの見出し人名のみを例外として、論文等の使用言語に関らず、日本人氏名のローマ字表記も含めて、名、姓の順に記し、いずれも頭文字は大文字、それ以降は小文字で表記する。

(4) フォント

和文の場合は明朝体もしくはゴシック体、欧文の場合は Times 系もしくは Century 系が望ましい。特殊なフォントを用いる場合は、フォントデータ(CD-ROM 等)を添付する。特殊文字や記号、イタリック体文字、注番号、ルビ等には、印刷した原稿に赤で印を付ける。

2. 書式細目

(1) 章および項の数字表記

- ① 開始、終わりについては番号をふらない。
例)はじめに・おわりに、まえがき・むすびなど
- ② 章にはローマ数字の使用 I、II、III・・・
- ③ 項目には(1)・・・、①・・・と続ける。

(2) 注

- ① 注は後注とし、注は論文全体で通し番号を付ける。本文中での注番号は、半角の数字と丸括弧で記入する。
例)……である⁽³⁾。
- ② 注の内容文は、本文の次、(謝辞がある場合は)謝辞の次、引用文献リストの前に一括して、通し番号順に記入する。

(3) 文献引用の表記

- ① 本文および注で引用文献を指示するには、丸括弧で括って、著者の姓、半角スペース、文献刊行年次、半角コロン、半角スペース、引用ページ数の順に記す。ページの桁は省略しない。
例)……である(鳥居 1927:468-469)。

- ② 一個所に引用する文献が複数ある場合は、文献ごとにセミコロンで区切って列挙する。
例) (秋葉・赤松 1935;岡 1935:58-72;Marcus and Fischer 1986)
- ③ 同一著者で引用する文献が複数ある場合は、刊行年を列挙する。
例) (鳥居 1913;1927)
- ④ 文献に言及すると同時に、その文献の著者への言及を文中に生かす場合は、文献刊行年次以下を丸括弧で括ってもよい。
例) 鳥居(1975:468-469)は……であると指摘している。
- ⑤ 論文中に引用する文献の中に同姓の複数の著者がある場合は、漢字表記の著者名は姓名を記し、ローマ字表記の著者名は名前の頭文字を附記して、区別する。
例) (石田幹之助 1942;石田英一郎 1951)
(Geertz,C.1960 ;Geertz,H.1963)
- ⑥ 同一著者の引用文献に、同一年次に刊行されたものが複数ある場合は、刊行年次にアルファベットをつけて区別する。
例) (鳥居 1913a;1913b)

(4) 引用文献リスト

- ① 配列順－原稿末尾の引用文献リストには、本文および注で言及した文献の詳細な書誌情報を、著者のアルファベット順に、同一著者の文献が複数あれば刊行年次に列挙する。同一著者の同じ刊行年の複数の文献を引用する場合には、刊行年次にアルファベットをつけて区別し、アルファベット順に配列する。
- ② 著者ないし編者は、姓、名の順に記す。日本語の翻訳書の場合、原案者を漢字ないしカタカナで記す。姓をカタカナで表す著者・編者は、姓と名を読点で区切り、名は頭文字のみとする。
- ③ 欧文文献では、見出しとなる著者ないし編者のみ、姓、名の順で記し、両者の間をコンマで区切る。共著、共編の場合、二番目以後の著者・編者は名、姓の順に記す。編書の編者は、単編は(ed.)、共編は(eds.)で表す。

(5) 書誌情報

- ① 日本語の論文の場合、論文名はカギ括弧、収録書名(ないし収録雑誌名)は二重カギ括弧で括る。雑誌の巻号は原則としてアラビア数字を用いる。
- ② 欧文文献では、論文の標題はローマン体、収録書名(ないし雑誌名)はイタリック体で区別する(印刷原稿上でのその指定方法は後述する。)論文名、書名ないし雑誌名はいずれも、非独立語を除き先頭の文字を大文字で記す。ただし、固有名詞は頭文字を大文字にする。
- ③ 引用文献リストには、雑誌論文であれば著者、刊行年次、論文の標題(翻訳であれば)翻訳者名、収録雑誌、巻号、収録ページ、(必要に応じて)雑誌の出版地および出版社を記す。

例)

石田英一郎 1948「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330。Keesing,R.M.1989 Creating the Past: Custom and Identity in the Contemporary Pacific. *The Contemporary Pacific* 1(1&2):19-42.

鳥居龍蔵 1975 「日本人類学の発達」鳥居龍蔵『鳥居龍蔵全集』pp.459-470, 東京:朝日新聞社(初出は1927年)。

- ④ 単行本の論文集に収録された論文であれば、著者、刊行年次、論文名、(翻訳であれば)翻訳者名、収録書の著者ないし編者、書名、(収録書が翻訳であれば)翻訳者名、収録ページ、出版地および出版社を記す。欧文の場合は、収録書をInで指示し、編者名はすべて名、姓の順に記す。収録書のそれ以外の情報は、下記の単行本の書誌情報の要領に従う。

例)

バーンズ,J.A. 1981 「ニューギニア高地におけるアフリカン・モデル」笠原政治訳、村武精一編『家族と親族』 pp.116-134,東京:未来社。

Schneider,D. 1976 Notes toward a Theory of Culture. In K. Basso and H.Selby(eds.) *Meaning in Anthropology*,pp.197-220. Albuquerque:University of NewMexico Press.

- ⑤ 単行本は、著者ないし編者、書名、(翻訳であれば)翻訳者名、出版地および出版社を記す。当該書物がシリーズ中の一冊である場合は、シリーズ名を書名に続けて丸括弧内に記す。欧文文献の場合、シリーズ名はローマン体とする。

例)単行本

柳田国男編 1935 『日本民俗学』東京:岩波書店。Clifford,J.and G.E.Marcus(eds.) 1985 *Writing Culture:The Poetics and Politics of Ethnography*. Berkeley,Los Angeles and London:University of California Press.

例)翻訳書

エリアーデ、M. 1974『シャーマニズム—古代的エクスタシー技術』堀一郎訳、東京:冬樹社。Van Gennep,Arnold1960 *The Rites of Passage*,translated byM.B.Vizedom andG.L.Gafee.Chicago: The University of Chicago Press.

- ⑥ ウェブサイトから情報を引用する場合は、基本的には前述の文献の書誌情報に準ずるが、その他にもサイト名、アクセス年月日、URL 等、アクセスおよび検索に有用な情報を記入する。

例)

Demmert,W.and R.Arnold 1996 Language Policy.In G.Cantoni(ed.) *Stablizing Indigenous Languages*(Center for Excellence in educationMonograph).
Flagstaff:Northern ArizonaUniversity. 26 July 2001
<<http://www.ncbe.gwu.edu/miscpubs/stabilize/ii-policy/index.htm#Abstract>>

以 上